

第463回鉄鋼流通問題懇談会

2023年10月27日（金）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 大阪、新潟、東北地区概況報告
 - （2）その他地区の概況
 - 鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - （3）総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 2024年1月鉄流懇運営方法変更について
5. 鉄流懇会長挨拶
6. 次回会議予定

2024年 月 日（ ）14：30～ 於：

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	日鉄物産
1. 需給動向（景況感）	（店売り分野）一般店売り分野は、荷動き極めて低調であり、足元では対前年比約1割減の状況が続いている。特に主な需要分野である建築向けが、人手不足による慢性的な工期遅延、案件見直しもあり需要低迷。もともと今年度に関しては案件端境期という事で、秋需も含め当初より期待されてはならず、年度終盤から来期にかけての需要回復に期待する向きもあったが、ここにきて一部で需要回復は25年度からという声も聞かれるようになってきており、先行きの不透明感が増している。自動車分野向けだけが若干持ち直している状況。各特約店は在庫量をおさえており、市中に荷余り感は然程ない状況ではあるものの、需要低迷が続くなか、価格は弱含みの状況が続く。	2023年8月末薄板3品在庫は400.1万トンであり、先月比+6.9万トンであった。（前年同月比△46.7万トン）在庫内訳としては、メーカー在庫171.6万トン（先月比+11.2万トン）問屋在庫81.3万トン（先月比△3.6万トン）コイルセクター在庫147.2万トン（先月比△0.7万トン）品種別内訳としては、熱延鋼板が198.4万トン（先月比+2.5万トン）冷延鋼板が81万トン（先月比+1.4万トン）表面処理鋼板が120.7万トン（先月比+3.1万トン）であった。 先月比増となつてはいるものの、メーカー在庫、問屋在庫、コイルセクター在庫全てにおいて前年同月より大きく減少しており需要動向を見極め在庫調整が進展していることを表している。また、今回の統計では流通在庫が減少していることが特徴である。市況動向が不透明で仕入抑制をしていることが、伺える。	2023年8月末の全国厚板シャーリング工業組合 厚中板在庫は378千トン（前月比▲1.6%、前年同月比▲20.5%）。市況様子見によりオーダー抑制が続いており、在庫量は12ヵ月連続で減少も、荷動き低調にて在庫減少ペースは緩やかになっている。在庫率は268%（前月比+10ポイント）と8月は稼働日が少なく出荷量が減少したため増加した。依然適正（200%）を上回る状況が続いているため、暫くは様子見の発注で在庫量は漸減する見通し。建機向けは北米以外の地域で陰りが見え始めるも、未だ高水準を維持。産機向けは需要低調により受注残も減少し始めているため、先々の荷動きに不安あり。大型建築案件は物流倉庫、データセンター、再開発案件が高位安定も、中小建築案件は回復の兆しが見えず、店売シャーの活動は低位横ばい。橋梁案件は補修工事を中心に安定。高炉の構造改革や更新工事により厚板の供給量は縮小しているが、産機・中小建築向け需要の伸び悩みにより、タイト感は見られず、市況も弱含み横ばいの状況が続いている。	形鋼：2023年度7～9月H形鋼のときわ会ベース全国平均出庫量は68.8千t/月、4～6月平均比▼2.2千t/月、前年同期比+1.0千t/月。建設分野における、中小案件については人手不足やコスト上昇等により延期や見直しが見られる状況が続いている。首都圏再開発案件は工期のずれ込みはありながらも工場系設備投資等の大型プロジェクトとともに需要は底堅く推移する見込み。 棒鋼：9月の関東東細受注量（鉄筋）は先月比+9.2万tの24.0万tと通常より多く明細が入ったことから、今度しばらくは落ち着いた状況が続くと思われる。価格についても10/12付けの関東鉄源が50,236円/kgと前月比▲1,080円/kgとなった事により様子見横ばいで推移するものと思路。
2. 需要産業動向	<建築・土木> 8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比9.4%減の7.0万戸。一方民間非居住用建築物の着工延床面積は328万㎡と前年同月比11.5%減で7か月連続の減少。店舗、倉庫がそれぞれ7か月、4か月ぶりに前年同月比で増に転じたもの、事務所、工場向けが大きく減少している。 <自動車> 8月の国内生産台数は、前年同月比10.1%増の60万台だった。車載半導体不足の影響が緩和してきたことを背景にトヨタ自動車など5社で生産台数が増加した。 <建機> 8月の建設機械出荷金額は、内需6.4%増の858億円、外需20.2%増加の2176億円となり、内需は14か月連続の増加、外需は34か月連続の増加となった。総合計でも16.0%増加の3,034億円となり、34か月連続の増加となっている。 <造船> 8月の起工は、前年同月比26.4%減の47.8万G/T(11隻)であった。	日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会発表の、9月の国内新車販売台数は43万7493台（前年同月比+10.7%）、軽自動車を除いた登録車は27万2208台で9か月連続プラスとなった。 8月度民生用電気機器国内出荷金額は1,972億円対前年同月比△6.2%と2か月連続のマイナスとなった。 製品別ではムフムンが618億円対前年同月比△4.1%と3か月連続のマイナス、電機洗濯機は289億円対同△15.1%と2か月連続のマイナス、電気冷蔵庫は415億円対同+0.4%と7か月連続のプラスとなった。 8月度の住宅着工戸数は全体で前年比△9.4%で3か月連続のマイナスとなった。持家は前年同月比△5.9%で21か月連続減、貸家が前年同月比△6.2%分譲住宅が△15.5%と3か月連続のマイナスとなった。	国内造船所の23年1-9月輸出契約実績は713万総トン（前年同期比▲24%減）。中小型バルカーを中心に900万総トン超の受注を確保した前年同期の実績を下回ったものの、一定の受注量を確保した。1-9月の受注額の船種別実績は、貨物船が前年内に自動車運搬船などの受注を積み上げていた反動で大幅増も、油圧船が3.6倍の隻数を成勢、バルカーはほぼ全ての船型で微減となった。足元、鋼材・資材価格と諸物価の上昇で高止まりする船運と弱含み船用燃料とのギャップにより新造船は様子見の横ばいを呈す。手持ち工事は9月末時点で515隻、2,218万総トンと約2.7年分の工事量を確保している。建設機械の23年8月出荷金額（補給部品除く）は内需が744億円（前年同月比+6.2%）、外需は1,988億円（同+29%）、総合計では2,732億円（同+22%）。北米、および欧州向けに前高調を背景に、全体では34ヶ月連続で増加した。産業機械の23年8月受注金額は内需が3,334億円（前年同月比▲4.5%）、外需は1,089億円（同▲24%）、総合計4,423億円（同▲10%）と2か月ぶりの減少。機種別では鉱山機械（同+11%）、化学機械（同+41%）、タンク（同+143%）が増加したが、ボイラ・原動機（同▲54%）、プラスチック加工機械（同▲32%）など計6機種で減少した。	8月の全建築物の着工床面積は931万㎡（前年同月比▼10.7%）と7か月連続の減少。内訳として公共建築主27万㎡（前年同月比▼15.6%）で前月の増加から再びの減少、民間建築主904万㎡（同比▼10.6%）で7か月連続の減少。 住宅着工数は70,399戸（前年同月比▼9.4%）、季節調整済年率換算値は81.2万戸（前月比+4.5%）、新設住宅着工床面積は5,530千㎡（前年同月比▼10.5%）で7か月連続減。 2023年度2/四期の鋼材需要量は、前年同期比+0.9%と横ばい、前期比+0.7%の2,037万トンとなる見通し。建築部門は中小物件が低調な状況が継続しているが、土木部門での季節的要因もあって前期比では増加の見通し。
3. 輸出入動向	2023年8月鋼管輸出量 縦目無鋼管：2万3,811トン（前月比+15.3%） 溶銲接鋼管：2万1,553トン（前月比+18.7%） 2023年8月鋼管輸入量 縦目無鋼管：2万2,979トン（前月比+6.1%） 溶銲接鋼管：2万1,553トン（前月比+7.0%）	8月度の主要品種別輸入実績は熱延広幅帯鋼が13.1万トン（前年同月比+2.8%）亜鉛メッキ鋼板が10.2万トン（同+26.5%）冷延広幅帯鋼が7.7万トン（同+21.2%）、厚板が3.3万トン（+5%）であり、いずれの品種も増加している。 一方、輸出につきましては、熱延広幅帯鋼が111.5万トン（同+32.2%）厚板が27.5万トン（同+19%）亜鉛メッキ鋼板が18.7万トン（同+12.4%）冷延広幅帯鋼が16万トン（同14.5%）であった。	23年8月の輸入通関実績は33千トン（前月比+9.3%）。韓国が31千トン（同+14%）と前月比増加も日本国内需要低調および価格優位性も低く輸入量は依然低水準で推移している。その他台湾が1.4千トンと前月比微増。中国材はユーザーへの認知度が低くスポット商売がメイン。23年8月の鉄鋼輸出実績は274千トン（前月比+19%）。主力の韓国向けが80千トン（同+21%）、台湾向け16千トン（同+7.3%）と増加した一方で、中国向けが46千トン（同▲26%）と中国国内の需要の盛り上がり欠ける。	輸出)8月の形鋼輸出数量はH形鋼以外も含む全体で52,543tと前月比+11.5%増加。内、H形鋼 輸出数量は、22,198tと前月比+0.2%と大幅な増加。棒鋼輸出数量は26,601tと前月比+7.7%となった。 輸入)8月の形鋼輸入数量はH形鋼以外も含む全体で12,223tと前月比+21.2%と大幅に増加。内、H形鋼 輸入数量は、8,557tと前月比+186.7%の増加。棒鋼輸入数量は133tと前月比+41.0%となった。
4. 海外市場動向	原油価格9月平均WTIは89.58ドル/バレルと3か月前に比べ、+27.5%上昇。産油国の生産調整に加え、中東情勢の混乱もあいまって高値推移が続く。 米国リグカウント数は減少傾向が続く（9月最終週507、6月最終週674）	世界鉄鋼協会がまとめた8月の世界粗鋼生産(63ヶ国：速報)は前年同月比+2.2%の1億5,260万トンと3か月連続で増加した。全数量の50%超を占める中国は同+3.2%の8,640万トン、続くインドは同+17.4%の1,190万トンと2桁増であった。 3位の日本は同△2.9%の710万トン4位の米国は同+1.1%の700万トン、5位のロシアは同+8.9%の640万トンであった。 2024年度も世界需要の伸びは続く見通しである。	韓国メーカー3社の23年8月厚板販売量は757千トン（前月比+4.8%、前年同月比+3.7%）と増加。国内販売量は528千トン（前月比+4.5%、前年同月比▲2.5%）。輸出販売量は207千トン（同+6.0%、同+17%）とそれぞれ増加した。23年1-8月の累計販売量は5,927千トン（前年同期比▲2.4%）。各メーカーは原料コスト増を背景に値上げ姿勢も国内厚板需要は造船以外弱く市況弱含み。中国は9月の粗鋼生産量が8,211万トン（前月比▲5.0%、前年同月比▲5.6%）と減少。建築中心に需要が減速し鋼材市況が軟化。足元は政府の減産指示を受けてメーカーがプレーキをかけているが、需要乏しく市況弱含みが継続される見通し。	8月の世界粗鋼生産量は前年同月比+2.2%増の1億5,260万トンと3か月連続で増加。海外鉄鋼市場は、世界的な物価上昇、インフレ抑制政策が継続し、顕著な回復は見られない。中国では政府による景気対策が打ち出されているが、景況感改善を待たず鉄鋼需要の回復は遅れている。又、中国主要メーカーの鋼材輸出量は高水準が継続し、周辺国のマーケットにも影響を与えている。かかる状況下、鉄鋼需要は様子見が続いており景気持ち直しには未だ時間を要すると思われる。

鉄鋼流通問題懇談会（2023年10月）

発表者	メーカー
発表項目	JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>(国内)・9月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回(6月)調査比+4の+9と良化。先行きも+10と1ポイントの良化。 23年度設備投資計画は大企業・製造業では前年度比+19.3%と、企業の投資意欲も底堅く推移。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、8月の小売業販売額は前年同月比+7.0%と18ヶ月連続の上昇。値上げ影響等もあり、上昇が継続。 ・製造部門では8月四輪車生産は前年同月比+9.3%と増加傾向が継続も、7月の機械受注は前月比▲1.1%と2か月振りの減少。 ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積は931万㎡(前年同月比▲10.7%)と減少傾向が継続となった。 <p>(海外) 米国：利上げの再開で政策金利は高水準だが、雇用、個人消費などは引き続き底堅く、通年では緩やかな経済成長となる見込み。 欧州：根強いインフレに加え、利上げが1年にわたって続き、企業活動や個人消費の重荷となり、経済回復には停滞が見られる。 中国：不動産市場の低迷、製造業の減速で内需が振るわず。景気回復ペースは一段と鈍化。景気浮揚策に期待したい。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <ul style="list-style-type: none"> (生産) ・23年9月の粗鋼生産（速報）は702万tと前年同月比で2ヶ月連続の減少。 (出荷) ・8月の普通鋼国内向け出荷は272万トンと3ヶ月連続の前年同月比減。 (在庫) ・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は530万トン3ヶ月振りの前月比増。 ・8月末の薄板3品在庫は400万トン（前年同月+7万トン）で400万tレベルが継続。 ・8月末の厚板シャー在庫は38万トンで12か月連続の減少。
2. 需要産業動向	<p>[建 築] ・8月の新設住宅着工戸数は7.0万戸（前年同月比▲9.4%）で3ヶ月連続の減。持家、貸家、分譲それぞれで減。 ・8月の非住宅着工床面積は352万㎡（同▲11.5%）で7か月連続の減。事務所、工場で減。</p> <p>[自動車] ・9月の国内販売（輸入車除く）は40.4万台（前年同月比+11.4%）。13か月連続の増加。 ・8月の完成車輸出は35.5万台（同+20.7%）で7か月連続の増。 ・8月（速報）の四輪生産は63.0万台（同+9.3%）で8ヶ月連続の増。</p> <p>[造 船] ・9月の新造船受注量は87万GT。手持工事量は2,219万GTと2千万台を維持。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] ・8月の全鉄鋼輸出は280万トン（前年同月比+11.6%）で2ヶ月連続の増。 [輸入] ・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は45万トン（前年同月比+5.6%）と7ヶ月連続の増。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の世界粗鋼生産は1億4,930万トン（前年同月比▲1.5%）で3か月振りの減。 ・9月の中国粗鋼生産は8,210万トン（同▲5.6%）。 ・9月の中国鋼材輸出は806万トン（同+61.9%）。 ・中国市中在庫は、10月13日時点で1,114万トン（同+3%）。